



阿波人形 浄瑠璃公演

平成29年 2月26日(日)

開演 13:00 (開場 12:30)

会場：あわぎんホール
(徳島県徳島文化会館)
1階 大ホール

料金：500円(当日・前売共通)
全席自由

●寄井座

「實録建治山御法之花
貞阿上人滝行場の段」

●ゲスト公演

竹本土佐子・鶴澤三寿々・轟綾
「人形浄瑠璃 三位一体を知る
～太夫 三味線 人形の絡み合い～」

主催：(公財)徳島県文化振興財団
協成：文化立県とくし産振興会議
「あわ文化振興プログラム支援事業推進会」

お問い合わせ：あわぎんホール
Tel 088-622-8121
Fax 088-622-8125

<http://www.kyoubun.or.jp>

じつろくこんじやまのりのりはな ていあししょうにんたきぎょうばのだん

阿波人形浄瑠璃『實録建治山御法之花 貞阿上人滝行場の段』

徳島を舞台とした阿波人形浄瑠璃を、プロによる再構成を経て寄井座が上演。

人形遣い・勘緑氏による指導の下、約1年かけて培ってきた稽古の成果を発表します。

ゲスト公演「人形浄瑠璃 三位一体を知る ～太夫 三味線 人形の絡み合い～」

人形浄瑠璃の魅力満載！ 女流義太夫・竹本土佐子氏、鶴澤三寿々氏によるゲスト公演。初心者にも分かりやすい解説やインタビューを交え、「酒屋のお園」「壺坂の万歳」など、有名演目の一部を勘緑氏による人形を加えて上演します。

演目あらすじ：實録建治山御法之花〔貞阿上人滝行場の段〕

忠義と佐作の兄妹が、仇敵を追って敵討ちの途にたのが三年前。長い旅路を経てに弘法大師のお告げを聞き、阿波の霊場十三番札所大日寺興之陣建治寺にやってくる。そして、建治の滝で滝行をしている僧侶・**曹川藤吉**に語り会った。藤吉は人々に崇め慕われている貞阿上人その人であった。仇討ち装束に身を固めた兄妹は、滝行をする無心の上人に後ろから斬りかかろうとする。目に入る「正道頓悟居士」と彫られた背中の入れ墨。それは亡き父の戒名であった。そのとき、天にわがにかき置り雷鳴轟く雲の彼方から、建治寺の本尊・**龍王大神**と亡くなった父・**正作**が現れる。

父は兄妹に、藤吉のこれまでの所行を語って聞かせる。故意に始めたのではないこと、返り討ちにくれとの書き置きはお家再興を奮起させるためのものであったこと、正作の戒名を入れ墨にまでして菩提を求っていたこと、大勢の人々に功徳を積み助かった兄妹のごとはかたときも忘れなかったこと、再仕官をさせるため無類抗て討たれた苦痛をされていること等々である。真実を知らされた兄妹は、仇敵藤吉憎しの考えを改めて、藤吉の功徳に感謝すると共に、悲願であるお家再興を胸に秘め、心静に因元へ帰っていく。

出演者プロフィール



寄井座 (よりいざ)

寄井座は、徳島市1980年に芸術祭村の有志によって創られた人形座で、正統には「上野組流派」ですが、流の根拠まで遡っています。当初は男性ばかりの座で活動していましたが、昭和50年から女性が増え、現在は11人構成7人、女性4人が中心です。流の伝承により多くの座を襲っており、流と流で習得しながら発展しています。特に流の中心となる流の特色は文化祭演目4種あり、お家争いと合わせて科舞によって演じています。徳島市の同志十部会連合会での定期公演を含め、本邦の140箇所以上の座で公演しております。特に地元で毎年4月3日(徳島の日)に開催される「小笠さくら祭(徳島 春の定期公演)」には、徳島出身して其の地の文化と交流しております。また、平成28年から地元の小学校の学習発表会に出演がはじまり「徳島阿波の人形浄瑠璃」を興えています。「すてきな」として、徳島県立高等学校徳島分校「さくらまつり」や「ももまつり」や地域の教育委員会に出演して地域の内外の方と交流しておりますし、伝統文化の継承にも取り組んでいます。

『実録建治山御法之花』は、平成16年度に徳島県文化芸術奨励金「阿波文化芸術奨励金」の一環として実施した。徳島に育まれた徳島の創作による阿波浄瑠璃の発展ということと、舞台色が幅広いたさき寄井座の人材力です。平成27年3月、貞阿上人おかりの徳島市人形師の建治寺で初に演じて、徳島県各々に上演をすすめています。



竹本 土佐子 (たけもと ととこ)

徳島市川島生まれ
義太夫独白、定期公演等に出演
1948年 竹本土佐子入門
1954年 二代目竹本流之助の御かかりとなる
1986年 竹本土佐子の門人となる
2000年 徳島県文化財 義太夫流
徳島市立博物館保存指定
2005年 豊竹流太夫の門人となる
2012年 徳島双光堂 顧問
2013年 徳島市 市民文化賞



鶴澤 三寿々 (つるざわ みずず)

徳島県立徳島大学文学部国文学科(国文学) 終了
義太夫独白、NHK邦楽番組等に出演
海外公演多数、「美浄瑠璃の会」主宰
1991年 竹本流之助に入門
1999年 義太夫協会新人奨励賞受賞
2001年 文化庁芸術家インターンシップ研修員
2006年 徳島県人権委員会
徳島県 (伝承者部門) 委員
2016年 国立劇場主催「明日をにむす演劇の軌跡」- 邦楽賞委員会 特別講演に出演



勘緑 (かんろく)

徳島県徳島市生まれ
元徳島市立徳島高等学校 人形師「木俣倉」主宰
全国各地の人形芝居の公演・演出や、徳島流の流行舞台療法にも積極的に取り組む
2007年 徳島文化祭創設部門コーディネーター
2009年 阿波人形浄瑠璃1000公演コーディネーター、新編書有大地の芸術祭特任アーティスト、徳島大学東京芸術学部講師
2009年 徳島新聞文化賞受賞
2012年 文楽座を設立しフリーの人形遣いとなる
2015年 徳島県芸術家賞